

バイブルスタディ Pastor JD Farag

2019.02.17

ピリピ人への手紙 3:20-4:1 「天の思いとこの世」

ピリピ 3:20-4:1

19 節の終わりから始めます。

19b 彼らは…地上のことだけを考える者たちです。

20 しかし、私たちの国籍は天にあります。

そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。

21 キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。

待ち切れません。私の気持ちが分かりますよね、私も皆さんの気持ちが分かります。

毎日鏡で自分を見るたびに、老いて来ていることを実感して「ああ、主よ、早く来て下さい。」

1 ですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。このように主にあって堅く立ってください。

愛する者たち。

祈りましょう。

主よ、私たちの心を静めて、あなたと、あなたが今日与えて下さっている御言葉に集中できるようにして下さい。

主よ、御霊が語っておられることを聞く耳を、このあなたの教会のあなたの民にお与え下さい。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。

正直に言うと、これは私がとても楽しみにしていた御言葉の1つです。

全部の御言葉にいつも同じことを言っているのは分かっていますが、この箇所は特に個人的に楽しみにしていたところです。

それは、天の思いについて、特に、クリスチャン人生に多大な影響を及ぼしている天の思いについて扱っているから。

更に特定して言えば、この世での良い行いは、天の思いを持つことに比例している。

これが、パウロがここで語っていることで、私が今日話したいことです。

またここは、文化的な状況を知るなら、より理解が深まる御言葉の1つだと思います。

その理由をパウロが聖霊によって語っていて、ここを読んだ時に皆さんが気づいているかどうか分かりませんが、彼はとても変わった方法で語っています。

そうすることで、当時のクリスチャンたちは、それを繋げて理解できたのでしょう。

ということで、これが今日、私たちが主に理解すべきことだと思います。

少し時間をかけて、ここからいくつかの文化的状況を見ていきます。

1 1 目。パウロが 20 節前半で言及していることに注目して下さい。

20a しかし、私たちの国籍は天にあります。

彼は、19 節の「地上のことだけを考えている人たちがいる」と対比させて、「私たちは違う。私たちは天の国民だ」と言っています。

これは私には興味深い対比です。

実は、20 節の言葉には意味があるのです。

ピリピの人たちにとって、この時代にローマ市民であることは非常に価値があることで、それを切望するほど貴重なことでした。

ローマから離れていたピリピはその植民地で、ピリピのクリスチャンは自分たちをローマ市民だと考えていたのです。

他にも興味深いことが詳しく書かれています。

2 つ目は 20 節後半。彼が強調していることに注目して下さい。

20b そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。

彼はなぜ「そこから」と言ったのでしょうか。

なぜ「私たちの救い主イエス・キリストを待ち望んでいます。」と言わなかったのでしょうか。

「そこから」とは天からということです。

私たちの国籍はこの地上ではなく天にあり、私たちの思いは地上のことだけではないから。

私たちは違います。

不思議なことに、ある意味、私たちの国籍は本当に天にあるのです。

「私たちは熱心に (Eagerly) 待ち望んでいます。」

20 But our citizenship is in heaven.

And we eagerly await a Savior from there, the Lord Jesus Christ (NIV)

私は Eagerly という言葉が大好きです。

「私たちは A Savior を熱心に待ち望んでいる。」

なぜ、The Savior と言わなかったのでしょうか。

興味深いですね。

「そこ (天) から A Savior (1 人の救い主)、主イエス・キリストが来る。」

ではどうして、これがそんなに大切なのでしょうか。

なぜなら、ローマ市民のピリピ人は、ローマ皇帝の訪問を熱心に待ち望んでいたからです。

ユリウス・カエサル(ジュリアス・シーザー)は“人間である全世界の救い主”(The universal savior of mankind)と呼ばれていました。

地上の事だけを考えている地上の国民と、反対に、天の事だけを考えている天の国民という対比。

だから、パウロはこのように言ったのです。

「ピリピ人は彼らの救い主ユリウス・カエサルを待ち望んでいるが、私たちは天の国民として、天から来る救い主を待ち望んでいる。」

ところで、ローマ市民はカエサルを主と呼ぶのですが、初代教会はそれを拒否したために、たくさんのクリスチャンが殺されました。

カエサルを主と呼ぶことを拒否した。

このことのために、初代教会の多くのクリスチャンが殺されたのです。

3 つ目。4:1 に詳しく記載されています。

1 ですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。このように主にあって堅く立ってください。

愛する者たち。

これには心を打たれました。

なぜなら、パウロは彼らを愛し、慕っていると言っているからです。

私たちは使徒パウロのことを強く、厳しく、怖がらせる人だと思っています。

でも、新約聖書のこの箇所に分かっていくと思いますが、パウロはとても深く、情熱的に愛した人だと私は信じています。

彼は大変感情的な人で、たくさん泣きました。

泣く男は弱いなんて、決して思わないで下さい。

泣く男は弱い男ではありません。柔和な男です。

柔和であること (Meek) と弱いこと (Weak) は同意語ではありません。

彼がテサロニケ教会へ手紙を書いたことを思い出します。

それは何と言うか…

彼はテサロニケにいるクリスチャンにこう言っているのです。

あなたたちのために骨折って、産みの苦しみをした母のように、子を産み出す母のように愛していると。

牧師である私は、これに心を探られ、打たれました。

「私は彼らのことをこんなに愛しているか?」と自分自身に問わなければならなかったから。

私は皆さんを愛していますよ。それは皆さんも分かっていると思います。

私は愛しています。

なぜなら、イエスを愛しているからです。

イエスはペテロに「わたしを愛するなら、わたしの羊を飼いなさい。」と言いました。

牧師の主に対する愛に比例して、牧師は神の人々を、神のことばで養うのです。

それが、私の皆さんへの愛です。

皆さんをととも愛していますが、あんなにも愛しているかは分かりません。

私を見る皆さんの目が変わらないようにと願います。

私はただ、皆さんに正直なのです。

では、ちょっと反対に聞いてみましょうか。

皆さんは、私をあれほど愛していますか?

私を愛しているのは知っていますよ。でも、あんなに愛していますか。

パウロはピリピのクリスチャンたちを非常に愛し、慕っていました。

なぜなら、彼らのことを自分の喜び、冠だと見ていたからです。

自分の報いとして、あたかもトロフィーのように、言うならば賞として見ていました。

そしてパウロは、このように主にあってしっかりと立つようにと熱心に勧めているのです。

彼が言っているのは、「彼らは私の報酬、私の冠、私の金メダルだ。」

彼らが当時知っていたオリンピック、当時はオリンピックではなかったけれど、その手の試合はあって、競技に参加しているランナーは最後に審判によってジャッジされ、そして冠を受けます。

それにたとえていて、パウロはそのことに、しばしば言及しています。

皆さんも冠の写真を見たことがあると思いますが、ギリシャの葉っぱの冠で…何を言っているか分かりますよね。

第1礼拝はいつも大ざっぱで…もっとコーヒーが必要みたいです。

(*会衆から)「ローリエ(月桂樹の冠)」

そうです! ありがとう! 10ポイント! 何のためのポイントか知りませんが。

We rest on our laurels(この栄光に満足する)はここから来ているのです。(Laurels:ローリエ)

彼らの頭に冠として置かれたローリエの葉。

今日では勝者に金、銀、銅のメダルが贈られますが、当時はありませんでした。

I コリント 9:25

競技をする人は、あらゆることについて節制します。

彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。

冠は何になるのですか。

言い方を変えると、私たちに待ち受けているその冠は、何が根拠になっているのですか。

パウロが答えていると思います。

その冠は、私たちがイエス・キリストに関して影響を与えた人々によっているのです。

よく言われている言葉に、「あっという間に人生は過ぎ去る。ただし、キリストのためにしたことだけは残る。」

世が提供する月桂樹の冠、報酬は残らない。

私たちに待ち受けている冠だけが最後に残るのです。

これによって、文化的状況が理解できればと願います。

なぜなら、特に、地上での時間の使い方と、天への期待とを繋げて行くことによって、実践的な適用を知る必要があるからです。

説明します。

私が提示したいのは、現在の地上での時間の使い方は、天への期待と、直接的に比例するという事です。

言い換えると、この地上で、イエスが来られる時まで従事したことは、イエス来臨の時に、天で待ち受けていることを決定づける。

それは天の思いと直接関係し、直接比例するのです。

皆さんが確かに聞いたであろう、有名な言葉があります。

「天の思いに溢れているクリスチャンは、地上では役に立たない。」

信じますか？ 私は信じません。

私は、真理以外は一切信じません。

真理は、その言葉の真逆だと反論します。

クリスチャンとして天の思いに溢れれば溢れるほど、地上で良いクリスチャンとなり、クリスチャンとしての良い行いも増すのです。

それは、天の思いに溢れることと比例します。

このことを、C.Sルイス（1898-1965）は“Mere Christianity”の中で次のように言っています。

「永遠の世界を楽しみに待ち続けることは、現代のある人々が考える現実逃避や願望的思考ではなく、クリスチャンが行うべきことの一つである。

それは、私たちが、今の世の中から離れなければならないということではない。

歴史を読めば分かるように、現在の世界のために最も多くを成し遂げたクリスチャンとは、次の世界のことを最も多く思っていた人のことである。

使徒たち自身、ローマ帝国の改革を進めたのだ。

中世を建て上げた偉大な人たち、奴隷売買を廃止させたイギリスの福音主義者たち。

彼らがこの地上で功績を残したのは、まさにその思いが天のことで満ちていたからである。

クリスチャンが別の世界のことを全く考えなくなると、彼らの影響力は全て失われるのだ。」

多くのことを示唆していますね。

そして、「天を狙いなさい。そうすれば、おまけとして世を得るだろう。

世を狙いなさい。そうすれば、どちらも得られないだろう。」

ベンス・ハブナー（1901-1986）は、これを以下のように表現しています。

「もしあなたがクリスチャンならば、あなたは天国に入ろうと頑張っているこの世の国民ではなく、この世を通過して天国に向かっている天の国民である。」

主よ、人生を変えるこの真理を、明確に、簡潔にティーチングできるよう助けて下さい。

この原理の重要性を、大きく広げて伝えられるか分かりません。

私がこう言うのは、現代の教会が影響力を持たない原因がここでよく分かるからで、私には、全く当然のことだと思えます。

クリスチャンが天の思いではなく、世の思いで満たされ過ぎているという悲しい現実、事実、真実。

天の褒美に目を向けておらず、自分自身のことを天の国民とは見ていない。

「私がクリスチャンなら、私は天の国民でもある。

そして、私が天の国民であるなら、それは、この地上で証明される。」

面白いことに、パウロが使っている“国籍”という言葉には、原語のギリシャ語には“言語である”という考え方が含まれるのです。

誰かの出身地を知りたいなら、その人が話している言語や話し方で、方言でさえも知ることができるでしょう。重要なのは、ただ天の国民であるだけでなく、天の言語を知っているか。天の文化が身に付いているかです。

ペテロが主を否定した時のことです。

彼の正体を明らかにしたのは、ガリラヤの方言でした。

「ああ、あなたはあそこの出身に違いない！」

そして3度目に少女がこう言います。

「いいえ、私はあなたが彼（イエス）と一緒にいるのを見た。彼と同じように話している。」

私たちもこんな風に言われたいですね。

「あなたは主と一緒にいた。」

「あなたは彼のように話し、彼のように行動し、彼と似ている。」

もし私が天の国民なら、私はそれを知っており、この世での自分の人生にそれが表れます。

日曜学校の歌をお借りしますよ。どの歌のことか分かりますね。

あれは替え歌だと思いますが、（* “幸せなら手をたたこう” のメロディ）

♪ あなたが救われていて、それを知っているなら、手をたたこう♪

さあ、一緒に！

♪ あなたが救われていて、それを知っているなら、あなたの人生にそれが表れる♪

ちょっと待って！ すみません。

何人かは私のことを、「私の残りの人生、先生の歌なしで過ごせたらよかったのに…」

「これは私と子供たちの歌なのに、先生のせいで完全に壊された。」という目で見ていますね。

私たちは気をつけなければなりません。

賛美する時、主を礼拝する時、自分の心を探り、偽りがないか、偽善がないか、確かめる必要があります。

私は、ある歌のことを考えていました。

♪ 私のすべてをささげ、礼拝します♪

本当に？

私の全てを献げて主を礼拝しているか。もしくは、半端な心か。

天の視点で生きていないクリスチャンは、天を切に待ち望みません。

この世で自分の天国を求めていること、それが問題なのです。

この世のもののために生きている。

私が永遠の視点で生きているなら、永遠を待ち焦がれるようになります。

反対に、私が世のために生き、この世のもののために生きているなら、天があつたとしても、それは遠い景色になってしまう。

私たちの心と思いが簡単にこの世に向いてしまうのは、私たちの宝がこの地上にあるからです。

マタイ 6:19-21 有名な山上の垂訓。

19 自分のために、地上に宝を蓄えるのはやめなさい。

そこでは虫やさびで傷ものになり、盗人が壁に穴を開けて盗みます。

20 自分のために、天に宝を蓄えなさい。そこでは虫やさびで傷ものになることはなく、盗人が壁に穴を開けて盗むこともありません。

ここで理由です。よく注意して。

21 あなたの宝のあるところ、そこにあなたの心もあるのです。

気をつけて欲しいのは、イエスは「あなたの心のあるところに、あなたの宝がある。」とは言っていないこと。

「自分の宝を蓄えているところはどこでも、そこがあなたの心があるところだ。」

だから、私が自分のために天に宝を蓄えるなら、虫やさびや政府や国税や…

すみません、納税期限はいつですか。もうすぐですよ。ちょっと思い出しただけです。

天にある私の宝は、壊されたり、盗まれることはありません。

私の宝は天にあるから。

だから、私は天国を切に待ち望んでいて、私の思いは天のことに向けられている。

私の心は天にあります。なぜなら、私の宝が天にあるから。

では、実際問題として、どのようにして、自分の宝を天に蓄えるのでしょうか。

答えは、パウロが今日の箇所で行っていることを見ればいいのです。

ピリピ教会のクリスチャンは、彼の喜び、彼の報い、冠、宝でした。

4:1 ですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。このように主にあって堅く立ってください。

愛する者たち。

パウロがこのように言えたのは、彼が自分の時間、宝、賜物を、神の働きに、神の人々に、そして天の御国に費やしたからです。

だから、人生の終わりにテモテへ手紙を書いている時、こう言えたのでしょう。

II テモテ 4:7-8

7 私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。

8 あとは、義の栄冠（一時的な葉の冠ではなく、ずっと残るもの）がわたしのために用意されているだけです。

その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。

裁きの日。これについては預言アップデートでお話します。

どういう意味かということ、もう一度オリンピックの試合のことを考えてみて下さい。

私たちがキリストの内にいるなら、大きな白い御座の裁き（黙示録 20:11~）に向かっているのではない。

私たちは、キリストのベマの御座とか、キリストの裁きの御座と呼ばれる別の裁きに向かっているのです。

そこには審判員であるイエス・キリストがいて、私たちがどのように戦ったか、どのように競争を終わらせたか、

つまり、私たちがどのように自分の時間を、宝を、賜物を使ったかをジャッジします。

そして主は、それに応じて報いて下さるのです。

私だけでなく、主の現われを慕い求めている（切望している）人には、だれにでも授けてくださるのです。

私が“Longing”（切望する）という言葉を使うのは、パウロが彼らのことを“Long for”（切望していた）と言っているからです。

そしてここでは、主の帰りを切望していると言っています。

私たちは自分が愛するものを切望し、人生を費やしたものを愛する。

これは真理でしょう。

人生を献げる愛、それをパウロは言っているのです。

彼は主を愛し、そして主の帰りを切望していました。

「先生、これは何だか重いですよ。」「ナニが言いたいの？」

「そりゃあ、先生は言うのは簡単。だって牧師だから。」

「フルタイム（専業）でミニストリーに関わっているし。」と思った人がいるかもしれません。

私はフルタイムミニストリーという言葉が嫌いです。
フルタイムミニストリーというものがあるなんて、私は信じていません。
それは、ライフタイム（一生涯）ミニストリーです。

話が変わりますが、水曜日の夕食会の時に、この件についてある人と話しました。
何年もの間、私はビジネス界にいましたが、私のビジネスは私のミニストリーでした。
それが、会社を売ってミニストリーに関わり、牧会を始めた時、私はもう、ビジネス仲間の人生に向かって語る
ことができなくなったのです。
なぜかと言うと、今や私は聖職者になったから。
牧師という肩書に慣れるのにはずいぶん時間がかかりました。と言うか、一生慣れないと思います。
なぜなら、それは隔ての壁を建てるのです。

私が飛行機に乗っている時は面白いですよ。
隣の人と会話を始める時、大抵この質問があるのです。
「どんなお仕事をされているのですか。」
私の答え方はいつも（声をくぐもらせて）「私は、ぼくしです。」
「えっ？ 何ですか？」「牧師です。」「ああ。失礼なことと言ってすみません。」
聞いて下さい。いいですか。何も失礼なことではありませんよ。
だけど突然、彼らは礼儀正しくなるのです。「言うことに注意しなきゃ。」
お気をつけて。
ところで、私はやっと“Watch your P's and Q's”（お気をつけて）の P's and Q's の意味が分かりました。
それは、お酒を飲む時に（液体の単位である）Pints（パイント）と Quarts（クォート）に気をつけなさいと言
うこと。

話を戻して進みましょう。
私が言いたいのは、今現在、あなたがいる場所や状況は、神があなたをそこへ置かれたのだということです。
そこは、あなたの働きとして、神があなたに出会わせる人々に届くことができる場所なのです。
あなたは、牧師である私の手が届かない人々に届くことができるという大きな可能性を持っています。
なぜなら、私は牧師、私は聖職者だからです。
それで、誰かが私のことを「聖職者ファラグ氏」と呼ぶのがとても嫌いです。
ローブを着た、最も聖い聖職者…違います！ 冗談でしょ！！

神は1つの考えをもって、あなたをその場所に置かれたのです。
もしかしたら、今日の誰かのための言葉なのかも知れません。
もしかしたら、仕事やキャリア、職場のことで悩んでいるあなたへの励ましの言葉なのかも知れません。
モルデカイがエステルにしたように。
それと同じような状況の中で、そこにいる誰か同僚のために、神があなたを送ったのではないですか。

雇用者はどうでしょう。あなたが雇用者ですか？
クリスチャンである雇用者としての目的のために、あの従業員が雇われたのではないですか。
従業員たちに手を差し伸べるために。
彼らに影響を与えるために。
イエス・キリストのために。
これは、最近ずっと、主が私に語って下さっていることに関係しています。
それは、私の生涯がどれほどの長さであったとしても、私が誰かのために費やした時間や行いは永遠に残り、決

して決して消えることはないということ。

ところで、私が「主が私に語っている」などと言う時、誇張しているではありません。

頻繁にそう言っていると思いますが、主は私にたくさん語って下さっているのです。

ここで、今日のティーチングの目的を話します。

主が携拳を遅らせて、まだ起こらないで、私が75歳まで生きるとします。

(75歳で私の生命保険が満了するからで、それを本当に願っています。

今年57歳になりますが、それまでに主が来て下さるように祈って下さい。)

それで、75年と無限、永遠とを比べてみましょう。

永遠には時間がありません。時間の基準がない。

別の言い方をすると、神が与えて下さった75年間に私がしたこと、永遠での報酬を受ける。

この重要な真理を、できる限りあなたの思考に書き込んで欲しいと願います。

ヘンドリック・ウィレム・ヴァン・ルーン (アメリカのジャーナリスト 1882-1944) の著書 “The Story of Mankind” は、私たちが、思考を永遠に向けることを助けてくれます。

彼は、こんな視点で永遠を見ました。

「スウェーデンの Svitjod と呼ばれる島の北部の高い所に、高さ 100 マイル (161 km)、幅 100 マイル (161 km) の岩がそびえ立っている。

1000 年に 1 度、1000 年！ 小さな鳥がこの岩に来て、くちばしで岩を削る。

岩がこうして削られていく時、その時に、永遠の中のたった 1 日が過ぎ去るのだ。」

皆さん、大丈夫ですか。

私は数学が得意ではなくて、天国で数学があるとは思いませんが、もしあるとしたら、それは聖化されているから私もできるでしょう。

それで、75年と永遠を比べるなら…、仮に75年と1000年を比べてみるなら、これでも価値がありますよね。

だとすれば、時間のない永遠ならなおさらです。

これが、私たちが待ち受けている天の永遠。

まだ地上にいる間は、これが私たちの動機であるべきだというのが、パウロが言っているポイントなのです。

残された時間は、きっと、もっと短いと言えるでしょう。

実話をお話して終わりたいと思います。

何年もの間、アフリカで仕えていた年配の宣教師夫婦の話です。

彼らは引退してニューヨークに戻ることになりましたが、年金もなく、体も悪くなっていて、挫折し、失望し、心配していました。

彼らが予約した船は、大きな狩猟大会から帰るテディ・ルーズベルト大統領と同じ船だと分かり、2人は、偉大な男を一目見ようとしている乗客たちと一緒に、側近たちが演奏しているファンファーレを見ていました。

だけど、この夫婦を気に留める人は誰もいません。

船が出港して海を渡っている時、年配の宣教師は妻に言いました。

「何かおかしい。私たちはアフリカで人生を献げて、神に何年も忠実に仕えてきたのに、誰も私たちのことを気にも留めない。狩猟の旅から帰って来た男にはみんな注目して、私たちのことはちっとも気にかけていない。」

妻は「あなた、そんな風に思うべきではないわ。」

(妻だけができることですね。)

宣教師は「私は納得できない！ おかしいよ！」

船がニューヨークに着いてデッキに入った時、大統領を歓迎しようと楽団や、市長、高官の人たちが待っていて、新聞社もたくさん詰めかけていますが、この宣教師夫婦には誰も気づきません。彼らは船からサッと降りて、次の日からこの町で生活していくことができるように願いながら、イーストサイドに安いアパートを見つけました。その夜、夫の魂は打ちひしがれ、妻に向かって「限界だ！」すると、「寝室に行って、主に話して来たらどう？」（この女性は私の妻を知っていると思います。私の妻も、私に何度も同じことを言っていますから。）

彼は寝室からすぐに戻って来ました。その時、表情が全く変わっていたのです。

「あなた、何があったの!？」
「主が話をつけてくれたんだ。」

大統領の帰国はものすごく歓迎されているのに、私たちには誰もいない。それがどれほど苦しいか、主に言ったんだ。そうしたら、主が肩に手を置いたような感じがして、そして、主はシンプルに言われたよ。『だって、あなたはまだ、家に帰っていないでしょう?』

まだ、やるべきことがあります。主が私たちに、あとどれくらいの時間を与えているかにかかわらず、イエスが戻って来られるまで、「主から任された時間や宝、賜物を、天の神の国のために忠実に用いている者」と見られるように従事しましょう。それは、現在のどんな苦しみよりも、人生で払ったどんな犠牲よりも、はるかに勝ることなのです。

祈りましょう。
天のお父様、感謝します。
主よ、私たちは、「本当に天の思いで溢れていた人」として数えられたいです。
「この人たちはこの世で、他でもなく素晴らしいことをやった。どのように愛し、どのように与え、どのように仕えたか、彼らの人生を見てごらん。」と。
主よ、私たちはあなたが「よくやった。良い忠実なしもべだ。(マタイ 25:23) 入りなさい。」と言って下さるのを待ち望んでいます。
イエスの御名によって。
アーメン。

~~~~~  
「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by JD Farag 牧師  
カルバリーチャペルカネオヘ <http://www.calvalychapelkaneohe.com/>  
Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii  
筆記 Rumi